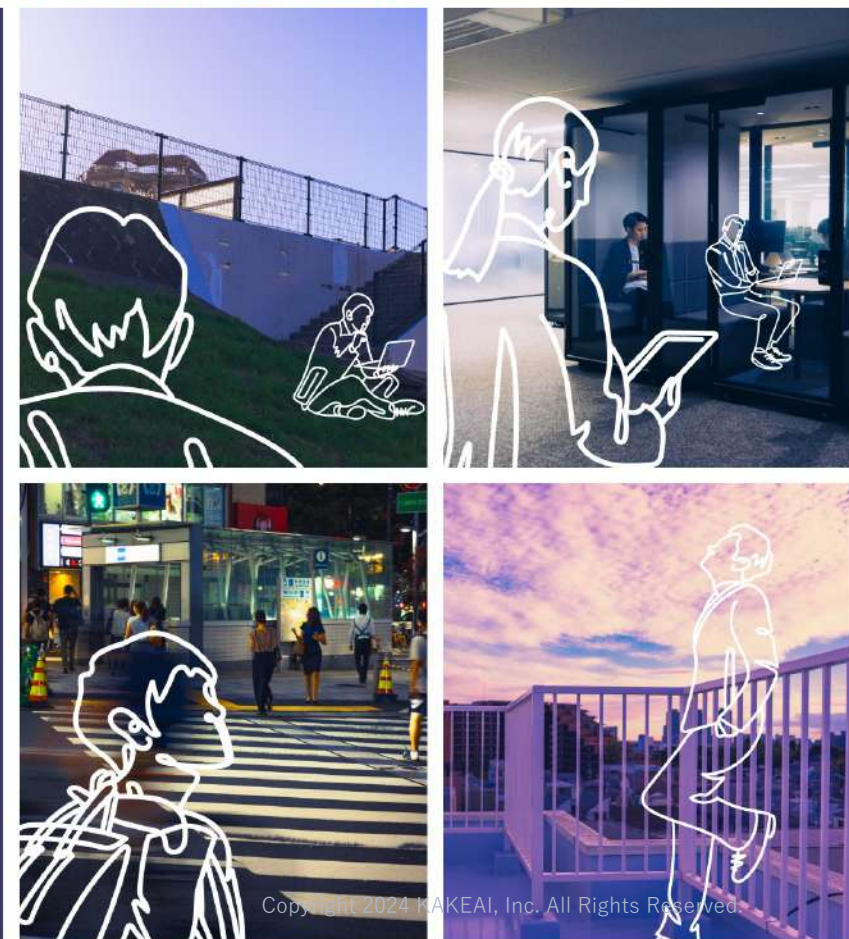




実証実験

売上・離職率で
2-3割の違いが生まれた1on1と
通常の1on1の5つの違い。

Kakeai
このとき、これから変わるとき。



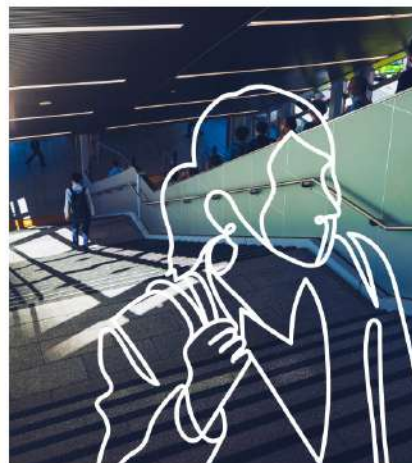
ある企業の500名の営業部門を、
無作為に分割。
両グループに、約8ヶ月に渡って
異なるスタイルでの1on1を実施。

結果、両者間では、売上および離
職率で2-3割の違いが生じました。

この資料では、この実証実験期間
中の両者の1on1の違いについて
ポイントを絞ってお伝えします。

Kakeai

このとき、これから変わるとき。



前提条件

前提

組織特性

- ある企業の営業部門（全体で約500名・全国に拠点が点在）
- 全国で同一のマーケットに対峙しており、市況の影響の受け方には拠点ごとの差がない。
- 管理職は35名（1on1で上司側にあたる社員）

1on1の取り組み

- 本実証実験以前から、人事が主導し、管理職向けには1on1に関する研修を定期的実施してきた。また、1on1の実施マニュアル、1on1に関する参考情報や動画を社内のイントラネットで共有してきた。
- これまでも、2週間に1回の1on1実施を推奨してきたが、具体的な実施方法は現場の管理職に任せてきた。

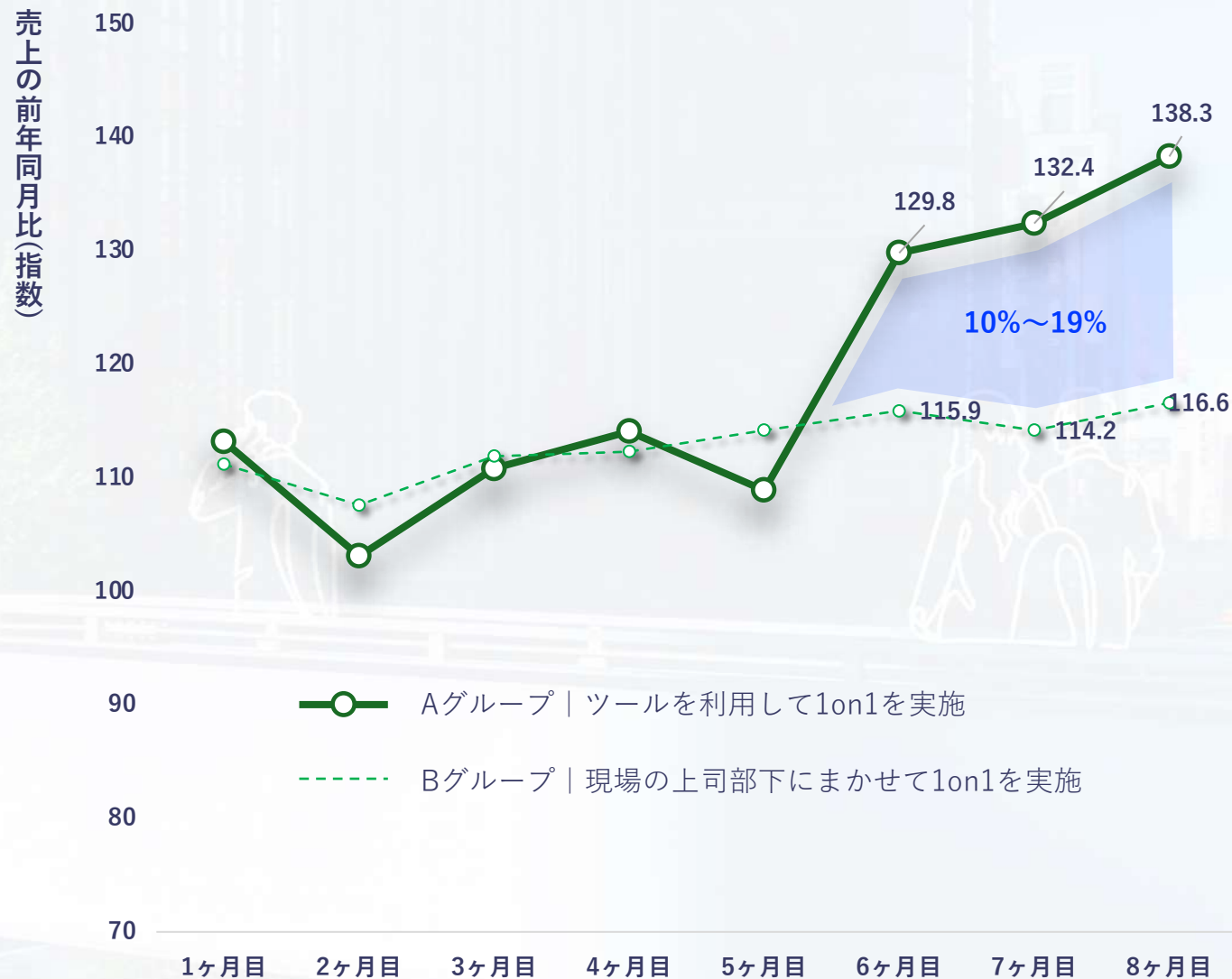
条件

- 無作為に分けた半数約230組のペアは、これまで通りの方法で1on1を実施。もう一方は、1on1支援ツールKakeai（カケアイ）を用いて実施。
- いずれも2週間に1回の1on1実施を「推奨（必須ではない）」
- 8ヶ月に渡って本条件を継続。

両者に生じた違い 売上

実証実験開始後、6ヶ月目から大きな差が発生（最大で約2割）

売上の前年同月比（指数）の比較



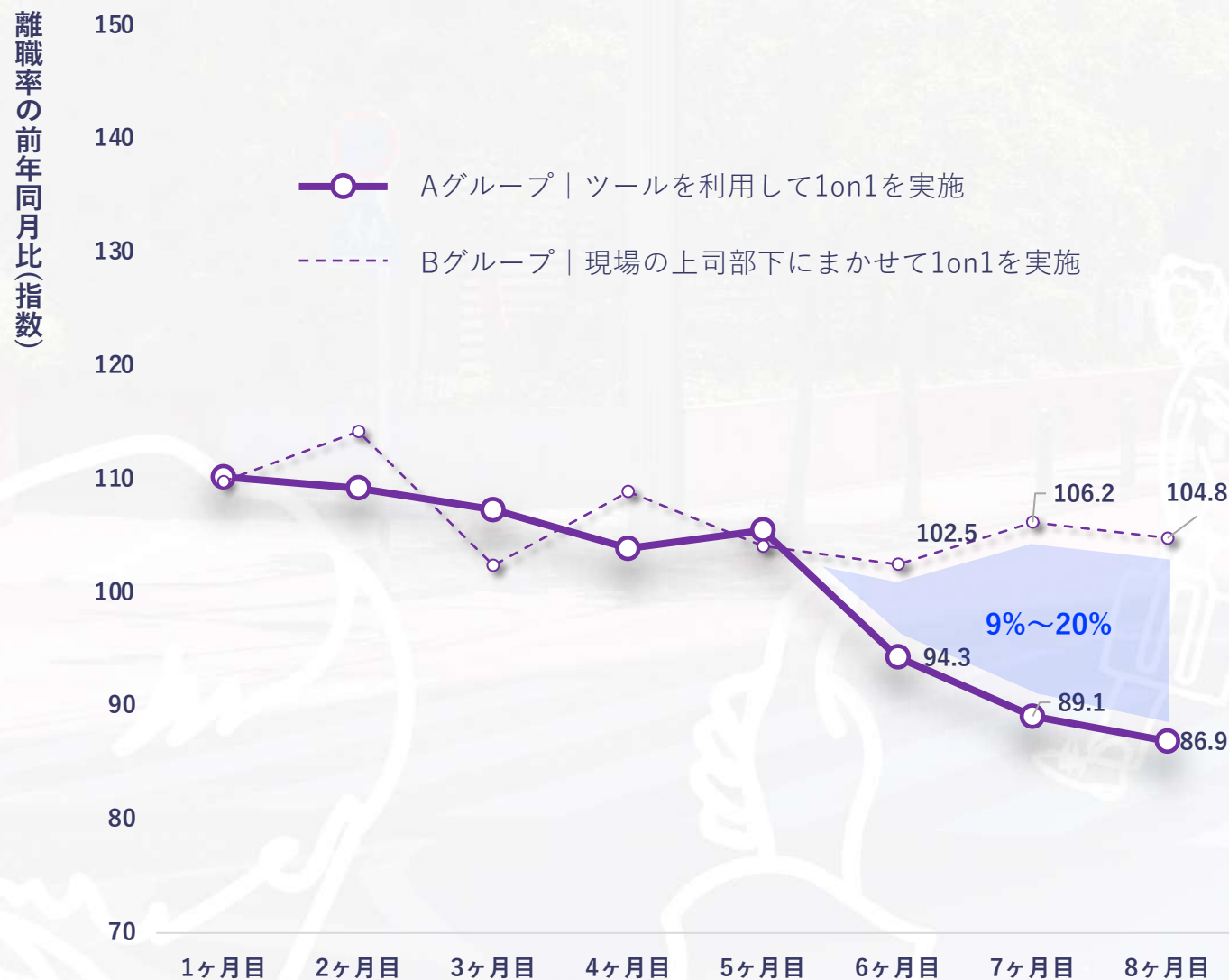
実証実験開始後の月数

両者に生じた違い

離職率

実証実験開始後、6ヶ月目から大きな差が発生（最大で約2割）

離職率の前年同月比（指数）の比較



両者の1on1に存在した 5つの違い

グループBが実証実験前と変わらず、現場の管理職に任せて1on1を実施していた一方で、グループAは1on1支援ツールを用いて1on1を行った。
1on1支援ツールにはさまざまな機能が存在するが、中でも5つの点において両者間に違いがあった。

Kakeai
このとき、これから変わるとき。

1

部下が、1on1で「話したいと思っていること」を選択した上で1on1に望んでいた。

2

部下が、上司に期待している対応（アドバイスを欲しい、一緒に考えてほしい、話をきいてほしい…など）を選択した上で1on1に望んでいた。

3

上司が、1on1の事前に、部下が「話したいと思っていること」と「自分に期待している対応」を確認した上で1on1に望んでいた。

4

お互いがいつでも確認できる場所にメモを残していた（メモは、会話した全てをメモするのではなく、ポイントとなる部分や、次回の1on1へ向けて日常的に意識しておくことなどをメモ）

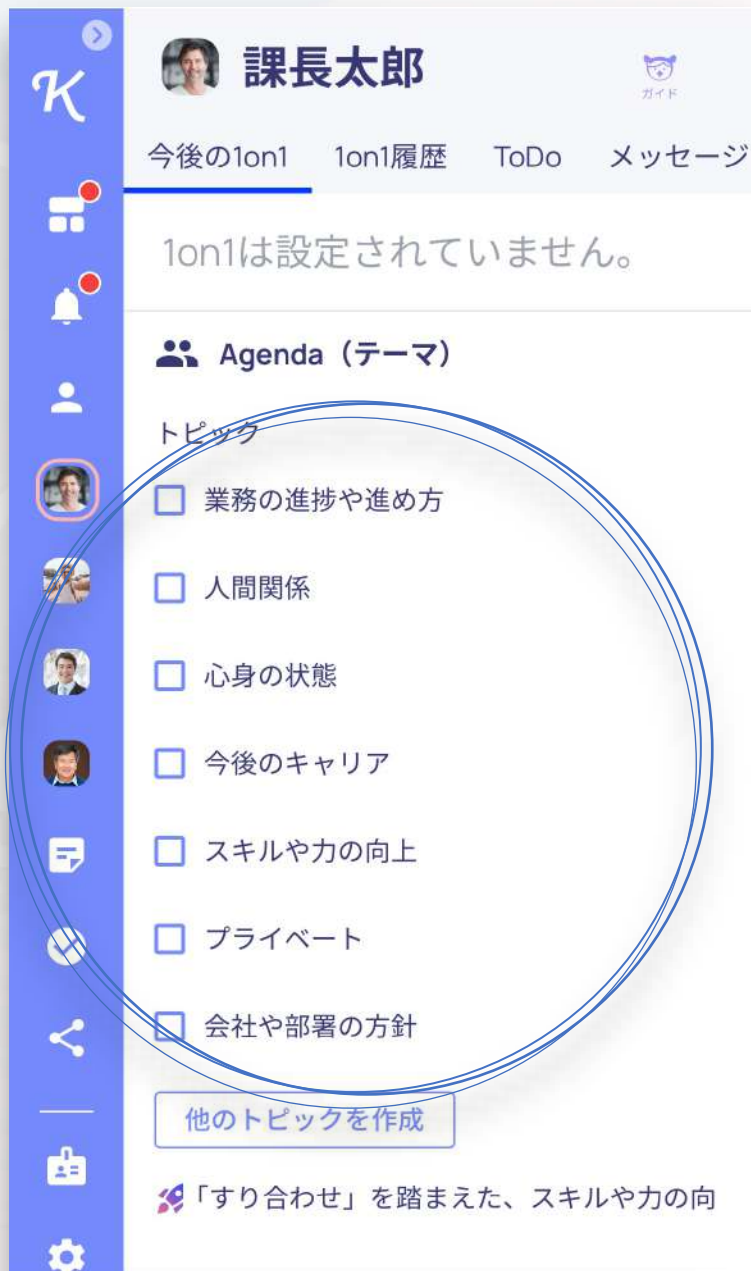
5

上司が「自分の得意や苦手」を把握し、さらに、他の上司の「こうやったらうまくいった!」というヒントをいつでも確認できる状態がつくられていた。

5つの違い

1

部下が、1on1で「話したいと思っていること」を選択した上で1on1に望んでいた。



グループAの「部下」の声

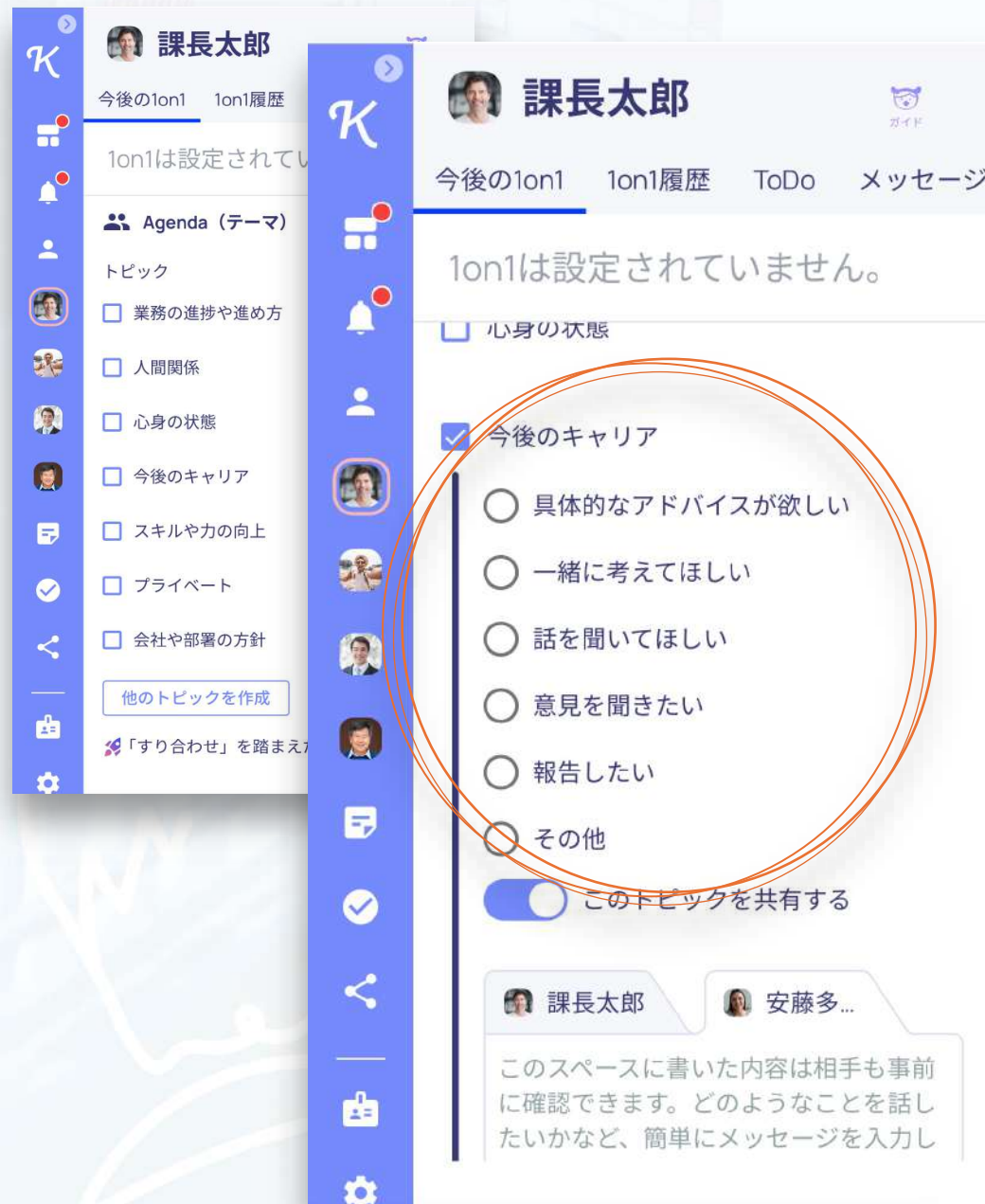
- 「何でも話していいよ」と言われたところで、切り出すのは難しい。選択肢があるのと無いのでは全く違った。
- 選択肢があることで、こういうことも話していいんだと思えて、安心して話せた。
- これまでは“出たところ勝負、だったが、時間の使い方を考えから1on1に臨むようになった。
- 業務の話しばかりになりがちだったが、ずっと話したかった「今後のキャリア」や、伝えておきたい「プライベート」の話を遠慮なくできた。

5つの違い

2

部下が、上司に期待している対応（アドバイスが欲しい、一緒に考えてほしい、話をきいてほしい…など）を選択した上で1on1に望んでいた。

Kakeai
このとき、これから変わるとき。



グループAの「部下」の声

- アドバイスが欲しいのに、話を聞かれているばかりだったが、そういうことがなくなって1on1の価値が高まった。
- 上司がどう考えているのかについても聞くことができ、普段のコミュニケーションが円滑になった。
- まだ考えが生煮えの時は、遠慮なく「一緒に考えて欲しい」を選択肢して胸を借りてみた。
- 「ひとまず伝えたい」ということも多々あるので、そういう場合は話を聞いてほしいを選択している。
- とにかく1on1が自分の時間になった。

5つの違い

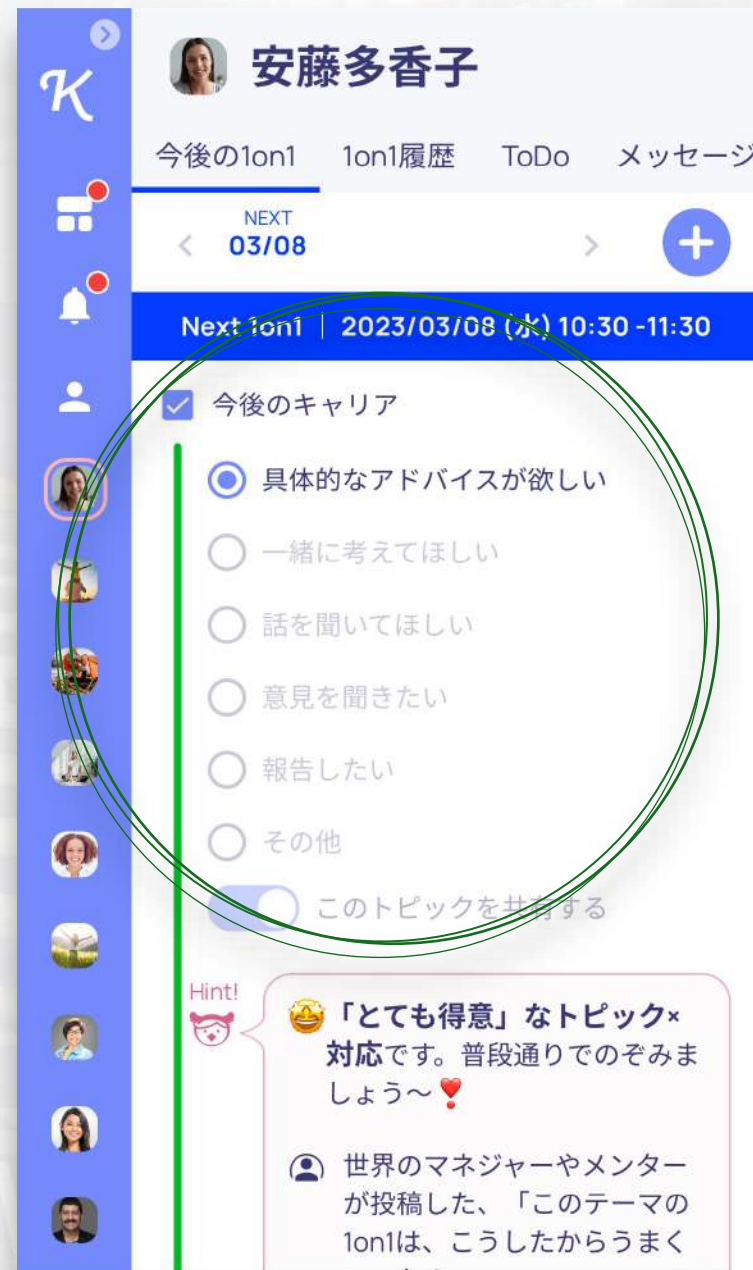
3

上司が、1on1の事前に、部下が「話したいと思っていること」と「自分に期待している対応」を確認した上で1on1に望んでいた。

グループAの「上司」の声

- これまでは自分が話をし過ぎないことを強く意識していたが、どうもしっくりきていなかった。相手が期待している対応に合わせたら、どんどん深い話しになった。
- 1on1開始の直前にほんの数秒だけ確認していた。それだけでも心の準備が全く違う。1on1は上司側にも心理的なストレスがかかるものだと思うが、それがなく1on1が楽しく、かつ噛み合うようになった。
- 私の場合、まだ管理職としての経験が浅いこともあり、特に「会社や部署の方針×意見を聞きたい」に対しては、あらかじめ部長にアドバイスをもらってから当該メンバーとの1on1に望んだ。
- これほどまでに、部下や、部下が選択するトピックに応じて、自分自身が期待されていることが違うということに驚いた。いかに自分が表面的な情報や、自分の解釈でそれぞれの部下を捉えていたかに気づく。

Kakeai
このとき、これから変わるとき。

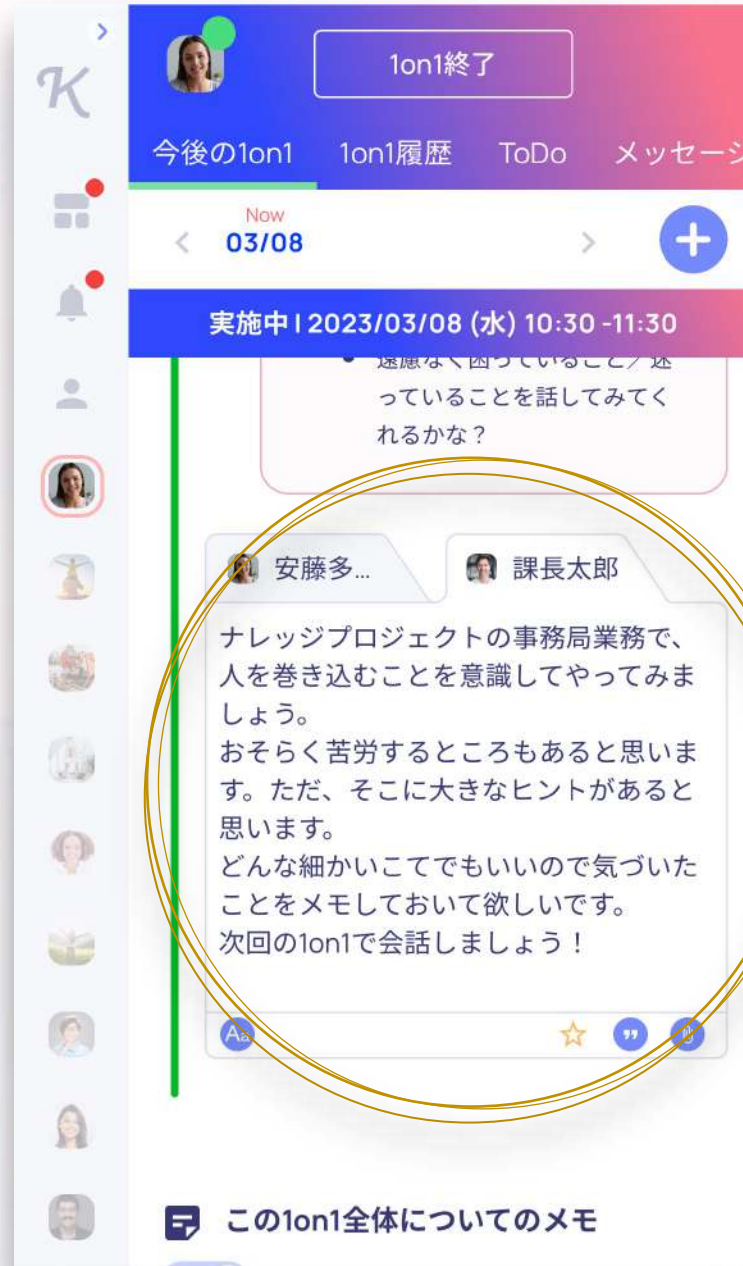


5つの違い

4

お互いがいつでも確認できる場所にメモを残していた（メモは、会話した全てをメモするのではなく、ポイントとなる部分や、次回の1on1に向けて日常的に意識しておくことなどをメモ）

Kakeai
このとき、これから変わるとき。



※本実証実験以降のバージョンアップにより、音声自動文字起こしや、ChatGPTによる1on1の対話自動要約機能が実装されています。

グループAの「上司」の声

- 少しだけの工夫だが“1on1のための1on1”ではなくて、1on1が起点となり、日常の部下の行動に繋がることで本質的なマネジメントのサイクルが回せるようになった実感がある。
- これまで「話したことを忘れる」「メモした場所が見つけられない」ということがあったが、一元管理されて非常に効率がよかった。

グループAの「部下」の声

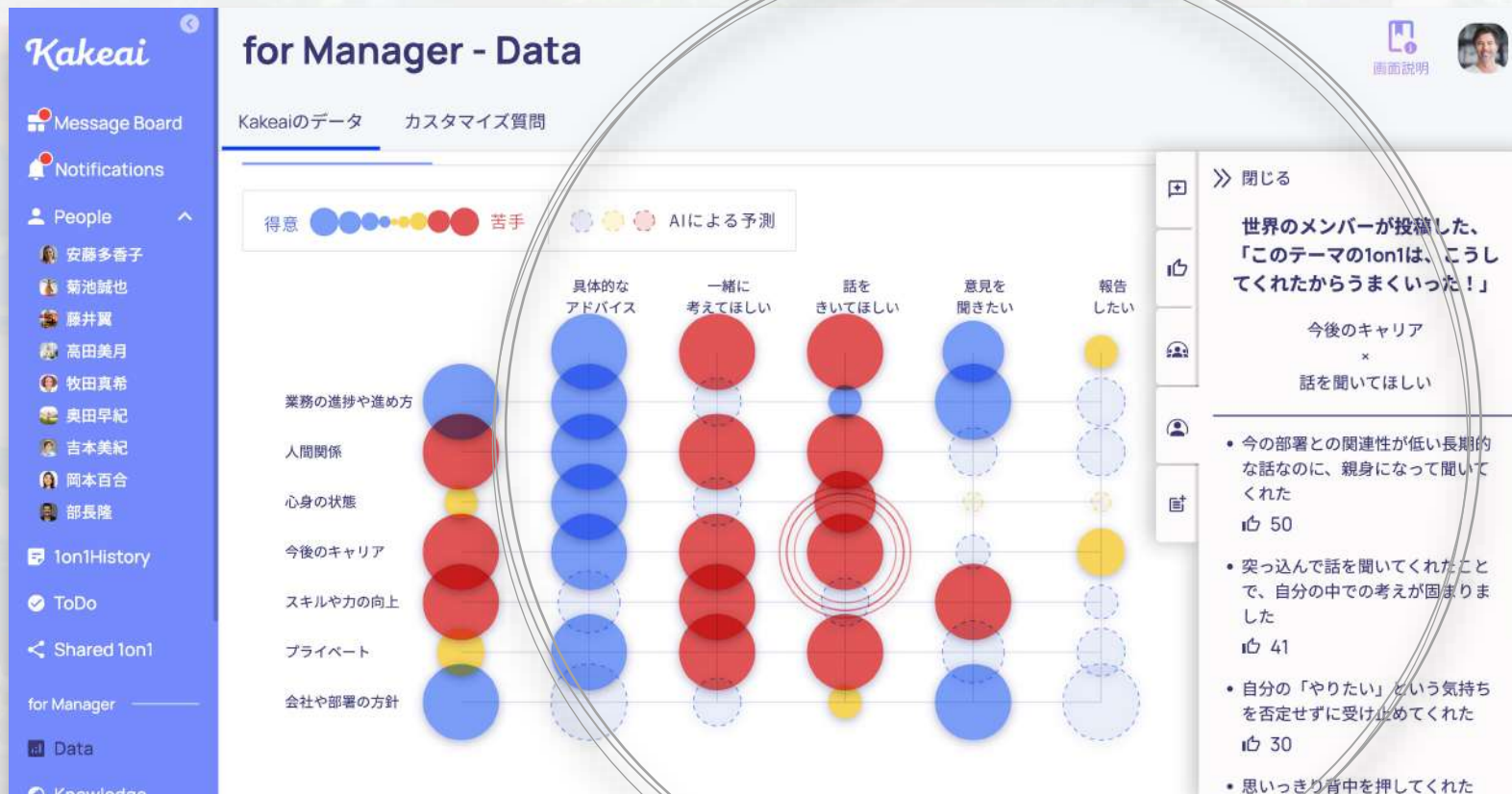
- これまでは“1on1で生まれるのは仕事”という感覚だったが、“自分自身の人生にとって今の仕事を活かすか”という観点で次回1on1までに意識したいことなどが生まれ、仕事の質がとても高まった。
- やはりきちんと話せば気づきや学びがあることを知った。そうした内容をメモに残している（同期されている部分に記載しながら、ニュアンスが違えば指摘ももらっている）1on1で自分の力が積み上がっているように感じる。

5つの違い

5

上司が「自分の得意や苦手」を把握し、さらに、他の上司の「こうやったらうまくいった!」というヒントをいつでも確認できる状態がつけられていた。

Kakeai
このとき、これから変わるとき。



グループAの「上司」の声

- 自分の得意なことと苦手なことがわかり、改善に効く。自分の場合苦手なことは割と認識していたが、得意なことがわかったのはとても自信に繋がった。気が楽になった。
- 他社のマネジャーの皆さんのコメントを見てとても刺激を受ける。皆さん頑張っているな、自分も頑張らなくてはと励まされた。

現場の上司部下の皆様に支持されるサービス 事実、人事“以外”からの問合せが82%

1on1支援クラウドKakeaiの基本である「1on1」機能。1on1特有の問題をテクノロジー・UX・特許で解決します。

よりよい1on1を追求し設計されたUX

1on1の質を高める、社会のナレッジ展開やAI

1on1の負担を取り除く、便利で楽な仕組み

1on1専用に発明された複数の特許

日本企業で初めて世界のHRtechサービスTOP30に
選出されるなど、国内外からの高い評価



特許：
二者間のコミュニケーションにおいて個々
人への関わり方を改善するためのコンピュ
タシステム、方法、およびプログラム 他
（特許6534179号、6602996号、6602997
号、6651175号、6813219号、7057011号、
7057029号、7084665号、米 国 特 許 第
11461724号）

+

あらゆる1on1を支える、その他の機能（一部）

Kakeai

このとき、これから変わるとき。



すり合わせ

中長期視点での成長支援プランを作成し
1on1につなげる「すり合わせ」機能



サーベイ統合

各種サーベイをKakeaiに統合し、ツール
を減らしながら、1on1を通じた具体的な
改善に接続する「サーベイ」機能



特性の相互理解

脳科学に基づくセルフアセスメントで個
人の特性に合わせた最適なコミュニケー
ションを生み出す「特性相互理解」機能



TODO

1on1をその場限りにならず、具体
的に日常につなげる「TODO」機能



メンター・メンティー

Kakeai上でメンター・メンティーと繋が
る、活性化する「メンター・メンティ」
機能



データ連携

ユーザー管理のための他システムとの連
携や、タレントマネジメントシステム等
での1on1データの取り込みを可能にする
「データ連携」機能



株式会社KAKEAI
東京都港区北青山2-13-5 青山サンクレストビル8F

お問い合わせ先
マーケティング本部 担当 | 白石・川端
contact@kakeai.co.jp
03-6721-1176

Kakeai
このとき、これから変わるとき。



BRAND STATEMENT

このとき、 これから変わるとき。

1on1、
この瞬間が、あなたの節目であるように。
この時から、あなた自身を肯定できるように。
このドキメキが、明日もあなたを輝かせるように。
この時間が、人生の分岐点に出会ったと感じられるように。

Kakeai の1on1 は、継続的に対話の質を高めます。

Kakeai